

平成28年度 新発田・北蒲特別活動部 活動報告

部長 渡邊 茂雄

1 研究主題

「望ましい人間関係を形成し、よりよい学級にしていくための手立てを探る」

2 研究の概要

4月12日（火） 第1回専門部会 役員選出、研究テーマ決定、活動計画立案

6月14日（火） 第2回専門部会 講演会（会場：紫雲寺小学校）

演題「学級づくりに役立つ研修」

講師：新潟市立新通小学校 阿部 勉 様

11月1日（火） 第3回専門部会 授業研修（会場：外ヶ輪小学校）

1年特別活動『『ともだち集会』の遊びを決めよう』

授業者 外ヶ輪小学校 長谷川 祐美子 講師

指導者 高崎経済大学 非常勤講師 橋本 定男 様

3 研究の実際

(1) 第2回専門部会 講義「学級づくりに役立つ研修」

講師の阿部勉先生より、潤沢な資料を提供していただきながら、特別活動について分かりやすく説明をしていただいた。それは、基礎・基本から、実践に基づく話し合いのポイントや、これからの特別活動の在り方までに渡り、大変有意義な内容であった。特に、話し合い活動については、年度初めから1年間を見通した学級づくりプランを構想し、意図的に子どもたちに話し合いの動機付けや話し合う意義を理解させていくことの大切さを教えていただいた。また、子どもたちの自発的・自治的な取組につながるような教師のかかわり方についてもご指導いただいた。

(2) 第3回専門部会 授業研修 授業公開・協議会

① 活動名 「『ともだち集会』の遊びを決めよう」

② 授業の実際

「友だち集会」で何をしたいかを「段ボールサッカー」と「お店屋さん」の二つに絞り、子どもたち一人一人が自分の意見を定めるまでが前時であった。

それを受けて、本時では、その理由を発表することから始まった。事前に、ワークシートに意見をまとめておいたことにより、短時間で全員が自分の意見を発表することができた。司会も子どもが行い、段取りよく発表していく姿に、1年生への可能性がふくらんだ。また、一人一人の意見を担任が短冊に書いて黒板に掲示するなど、それぞれの意見のよさが分かるような工夫も見られた。

次に、友だちの考えがよく分かるように、ボランティアの子どもたちが演技をする場面になった。教室の中央の空間に、たくさん子どもたちが出てきて、演技を始める姿は使命感にあふれていた。しかし、逆に、その演技を見る子が少なくなってしまう、その後の協議会では、

「人数が多すぎたので絞った方がよかったのでは。」という感想が出された。



一人一人が自分の考えを堂々と発表



たくさんのボランティアが、熱の入った演技。あれっ、それを見てる子は？

後半では、考えが変わった子がネームプレートを移動させる場面があった。しかし、ほとんどの子がお店を選んでしまい、ドッジボール側に残った子がわずかになってしまった。授業者は、子どもたちの考えを視覚的にはっきりさせることで、子どもたち同士での折り合いを期待したが、逆に少数派が浮き彫りになってしまった。

その少数派を、いかに説得するかが最後の場面になった。「お店屋さん」を選択した子どもたちは、「ドッジボール」を選択した子どもたちに、決して責めたり、怒ったりすることなく、優しくていねいに語りかけていた。日頃の学級経営のよさがうかがえる場面であった。それによって、ほとんどの子が納得したが、最後まで譲らない子もいた。その子に対しては、子どもたちだけでなく、授業者も働きかけたが、残念ながら時間になってしまい、授業を終えた。

協議会では、最後まで譲らなかったその子の特性にも配慮しながら、どうやってケアするかが話題の一つになった。



意見が片寄ってしまった。



友だちの意見を聴き合う姿がすばらしい。

授業後の協議会では、指導者の橋本定男様から次のようなご指導をいただいた。

- ・子どもたちが、意見を自由に発表できる文化（土台）が大切であり、それが1年生でもできていた。（最初はワークシートを見ながら発表していたが、その後はフリースタイルで発言していたのを見ても分かる。）
- ・日頃から、自分の意見と他の子の意見の違いを分かり合う場を、いかに設定していくかが大事である。学級会という形にこだわらず、短時間の話し合いも盛り込みながら、年間を見通して取り組むのがよい。
- ・一人一人の意見が交わされ（拡散）、そこからどうやって折り合いをつけていくか（収束）が課題である。そのためには、論点整理をしっかりと行うことが重要である。
- ・流れとしては、主張→理解→折り合い・合意という「分かり合った姿」で収束させたい。多数決も一つの方法ではあるが、少数意見が敵対されたり、勝負のようになってしまったり、次の話し合いへの意欲がしぼんでしまう。多数決の前に、お互いの気持ちを分かり合えるような場を設定するとよい。
- ・子どもの歴史は「価値」「文化」である。それは、ルールややり方、課題などの「仕組み」と、「教師の働きかけ」の相互作用によって創り上げられていくものである。日頃の教師の意識が大切である。

4 成果と課題

会員が少ない中、外ヶ輪小学校の長谷川先生に授業を公開していただいた。授業者に感謝しながら、部会としてもできるだけ支援したいと考え、第2回専門部会では阿部勉先生、指導案検討会や第3回授業研修では、橋本定男先生のご指導・ご支援をいただくことができたのは幸いだった。また、指導案検討会の持ち方や専門部会の日程の変更などについても、事務局に柔軟な対応をしていただいたのはありがたかった。

今回提案していただいた「話し合い活動」の内容は、他の教科でもアクティブラーニングを進める上で、大変重要な活動だと考えている。今後は、特別活動という枠だけで考えるのではなく、教育活動全体にかかわる取組として位置付けていきたいものである。